

災害時の福祉を考えよう！

～障がい者も区民のひとり～

2011年3月11日に発生した東日本大震災での障がい者の死亡率は、一般住民の約2倍であったとの報告がされています。

今回の安心ネットフォーラムでは、「災害時の福祉」という観点から、東日本大震災の時に障がい当事者や支援者はどう動いていたか…、行政や公共交通機関の動向やその後の対策は…、皆さんと一緒に誰もが住みやすいまちづくりについて考えていきます。

平成26年3月1日(土)

13:00～16:00

(受付は12:30～)

会場：板橋区立グリーンホール 2階ホール

参加費：無料 ※当日、直接会場までお越しください。

[プログラム]

第一部：映画上映

「生命(いのち)のことづけ～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11～」

第二部：パネルディスカッション

◎コーディネーター：社会福祉法人 にりん草 生活支援センターにりん草

櫻井 基樹 氏

(1)「2011.3.11 あのとき板橋では・・・」

パネリスト：板橋区教育委員会 学校防災・安全教育専門員 矢崎 良明 氏

板橋区立赤塚福祉園 就労継続B型 係長 斉藤 敦子 氏

(2)「その後、どう対応策が講じられているか」

パネリスト：板橋区危機管理室 防災計画推進課長 義本 昌一 氏

東武鉄道株式会社

主催：板橋安心ネット

(事務局) 社会福祉法人 板橋区社会福祉協議会 在宅支援課

TEL: 03-3964-2222 FAX: 03-3964-1176

MAIL: anshin-net@itabashishakyo.jp

後援：板橋区 / 板橋区教育委員会

公益社団法人 東京社会福祉士会・板橋区社会福祉士会

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

見えないからわからないんですが、周りが火の海と聞いて、もう終わりかと...

「君たちは放射能を浴びているからあっちへ行け」と言われた

障害があるからといって決して、いのちをあきらめたくない

母、妹、妹の子だもを車に乗せて、逃げる途中だった

いのち
生命のことづけ
～死亡率2倍 障害のある人たちの3.11～

監督・脚本 早瀬 憲太郎
プロデューサー 梅田 ひろ子
ナビゲーター 早坂 洋子 (みやぎ盲ろう児・者友の会会長)
ナレーター (音声) 大和田 新 (ラジオ福島アナウンサー)
ナレーター (手話/唇) 善岡 修 (デフハットシアターひとみ代表)
ナレーター (音声解説) 岡 啓子

この映画は、障害者の死亡率が住民全体の2倍以上である(自治体・報道機関の調査による)との事実を踏まえ、被災した当事者、関係者の語りを大切に記録し、広く世界に伝えていくことを通じて、今後の復興や防災、地域社会づくりに提言していくことをめざしています。

■制作 日本障害フォーラム(JDF)
日本財団
■製作 特定非営利活動法人 CS障害者放送統一機構 目で聴くテレビ



障害のある人の生死を分けたものは何か。
どうすれば人間としての尊厳を失わずに
生きのびることができるとか。

東日本大震災で被災した盲ろう者の早坂洋子さんをナビゲーターとして、この映画は進行する。

津波で命を失った人たち...家族や仲間たちが語る証言。

ようやく生きのびた人たちを待っていた、苛酷な現実。

避難所で「出ていけ」と罵声を浴びせられ、

蹴られた精神障害のある人たち。

床に寝ることができず、十六日間

車いすに座り続けるしかなかった女性。

避難指示区域に五日間取り残された全盲の高齢女性...

そうした中、さまざまな障害者団体や支援団体が、

自治体からの協力を得ながら、支援の取り組みを開始する。

福島県南相馬市と岩手県陸前高田市では、

個人情報の開示を受け、障害者の訪問調査が実現する。

新たな大災害の可能性が指摘される中、震災を経験した

当事者、関係者の姿を通じて、今後の復興と地域づくりに

向けたあり方を探る。

【板橋安心ネット登録団体】

- ・板橋区手をつなぐ親の会・赤塚福祉園・小豆沢福祉園・加賀福祉園・高島平福祉園・徳丸福祉園
- ・蓮根福祉園・前野福祉園・三園福祉園・おおやま福祉作業所・とくまる福祉作業所・はすね福祉作業所
- ・まへの福祉作業所・生活支援センター にりん草・板橋区ダウン症児者親の会 ほほえみの会
- ・板橋区発達障害児者親の会 IJの会・ハートワーク・板橋福祉工場・障がい者福祉センター
- ・板橋特別支援学校 PTA・高島特別支援学校 PTA・地域活動支援センター あやとり・いけぶくろ茜の里